

③熊取町教育委員会・大阪体育大学「中学校部活動スポーツ指導者派遣事業」(その1)

(1) 派遣制度の概要

大阪体育大学は、2018年3月2日に熊取町と「“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクトに関する協働協定」を締結した。その協定内の5つの協働項目のひとつである「運動・スポーツの推進」において、スポーツ局が先導的に展開し、2019年4月1日に「中学校部活動スポーツ指導者派遣事業」に関する協定書を締結、2020年2月から「中学校部活動スポーツ指導者派遣事業」を開始した。

「中学校部活動スポーツ指導者派遣事業」は、本学のシンボルでもある各運動クラブの所属学生が、熊取町立の各運動部活動のニーズに応じ、継続的に運動クラブの指導に向かい、自身の日頃の競技活動や所属クラブで培った知見や経験を、各運動部所属中学生の指導へ還元し、各中学生の部活動経験の充実と対象クラブの顧問教諭の業務負担軽減と指導環境の一助となることをめざした制度です。

(2) 派遣までのプロセス

①制度立案のための協議調整

(本学スポーツ局と熊取町)

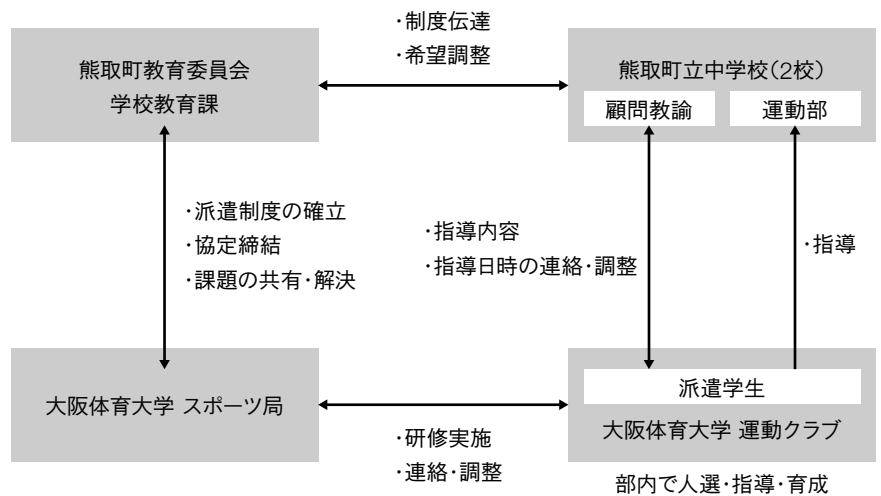
②ニーズの把握(各中学校へのヒアリング)

③トライアルの実施

④協定締結

⑤実施にあたっての条件や課題の協議・調整

⑥実派遣の開始と調整(適宜)



(3) 派遣先の情報

派遣先:熊取町立C中学校 スポーツ種目・武道 合計19名(男子13名、女子6名)

[内訳]1年生:男子3名、女子3名 2年生:男子7名、女子3名 3年生:男子0名、女子0名

練習時間:月曜日～金曜日(1～2時間、但し、月曜は自主練習)、土曜日(2時間)、日曜・祝日は休み。平日も週1日は不定休。

顧問:男性(30代前半)

担当教科:社会科

競技歴:球技6年(中学校・高等学校)、指導歴:指導歴:球技8年・当該運動部の種目3年、資格:当該運動部の種目の初段

(4) 派遣学生の情報

派遣学生:本学3年生(女性)、競技歴:当該運動部の種目14年2ヵ月、指導歴:なし。

(5) 派遣学生の情報

開始日:2019年3月～

指導日:2019年3月28日9時～10時55分(→本事業のトライアル)

2019年11月15日(金)16時～17時(試合前日)(→外部指導者として実施)

2019年12月18日(水)14時30分～16時20分(→外部指導者として実施)

2020年2月18日(火)16時～17時(→本事業の本実施)

③熊取町教育委員会・大阪体育大学「中学校部活動スポーツ指導者派遣事業」(その2)

(6) 指導方針

ひとり一人が大切にされるクラブ。出会った全員がそれぞれのペースで成長できる場にしたい。

競技の技術だけでなく、コミュニケーションスキルやアイデアなど、社会に出た時に役に立つであろう総合的な人間力を育成したい
顧問から派遣学生に対しては、以下を予め伝達している。

- 1) 当該運動部の種目を通じて生きていく、生活していく為の大切なものを教える。上達もそうだが種目の楽しさを知ってもら。
- 2) 「今日、頑張れたな、良かったな」と感じられる活動にして欲しい。
- 3) 全員の大切な居場所となる部活動にする。
- 4) 目的は伝え、目標の達成は、生徒自身に任せる。
- 5) 全員で助け合ったり、全員で協力したり、全員で築き上げるクラブとして、生徒自身の意志を尊重して運営したい。

顧問からは「生徒と年齢が近いという点を生かした指導をして欲しい。楽しさを教えると共に、専門的な技術、知識を取り入れて教えて欲しい。指導の新鮮さワクワクさを絶やさないよう工夫して欲しい。」という要望をもらっている。

(7) 派遣結果

1) 生徒へのインタビュー調査(2020年2月18日、同運動部の男女キャプテンを対象に実施)

- ① 大学生が指導に来てくれると聞いてどのように思いましたか。
→ 専門的に指導してくれる人がいなかったので、来てくれるのは嬉しかった。本当に嬉しい。
- ② 実際に大学生から指導を受けてどのように思いましたか。
→ 分かり易い。今まで知らなかったことを知れたり、基本練習の今まで知らないやり方を教わったのが良かった。
- ③ 大学生の指導を受けてあなたの技能はどのように変わりましたか。
→ これまで僅かな機会だが技術的なアドバイスをもらって、技術面で向上した実感はある。
動きの癖とかがあったけれど、アドバイスで直せた感じがする。
- ④ 大学生の指導を受けてあなたの体力はどのように変わりましたか。
→ 体力面で向上した実感はないが、自身でさらに稽古をしようという気持ちにはなっている。
- ⑤ 大学生の指導を受けてあなたの生活態度はどのように変わりましたか。
→ 特になし
- ⑥ 顧問の先生と大学生と2人体制の指導についてどのように思いますか。プラス面とマイナス面の両方をお話してください。
→ 特段、問題となることはない。もっと指導に来て欲しい。



③熊取町教育委員会・大阪体育大学「中学校部活動スポーツ指導者派遣事業」(その3)

2) 顧問のインタビュー調査(2020年2月18日、同運動部の顧問教諭で実施)

①本学の学生を受け入れてくださったのですが、本学学生の指導に関してどのように思われましたか。

感謝をしている。技術もそうだが、練習メニューを分かり易く説明してくれるだけでなく、(生徒との)コミュニケーションの取り方が非常に良い。(このインタビューの合間でも)笑顔でブレイクタイムをつくり、笑顔で子ども達(の意欲)を凄く上手に引き上げてくれる。(子ども達を)引きつけて伸ばしてくれるところが、(彼女の)指導者として魅力であり、指導者として長けていると感じており、有り難い。

②本学の学生を受け入れてくださり、先生の業務にどのような影響がありましたか。

まだ頻度が少ないので、業務が楽になったという実感はない。ただ、有り難いのが、平日、クラブに携わる時間や労力が割けず、(顧問教諭自身が)不在なことが多く、子ども達のモチベーションを維持することが難しい中、月に1回くらいの頻度での派遣実施でも、子ども達に、(外部から指導者が来てくれるという)特別感を与えることができる。子ども達も「来週、指導者が来てくれる」ということを楽しみにしてくれる。子ども達の日々の気持ちを「維持する」「上げている」ことには非常に効果的で、(自身がクラブに行けない)という不安感を軽減してくれていることになっている。自身は当該運動部の種目の専門家ではないので、技術の面で子ども達を引っ張っていけない。例えば先日、別の学校に合同練習に行ったが、こども達はそういう特別な機会を楽しみにしている。そういう意味では、部活動指導に好影響を与えているのは間違いない。

③現在、運動部において部活動指導員を導入する動きがあります。これについてどのようなご意見をお持ちですか。

私見であるが、「クラブ運営・指導の外部化」には賛成の立場である。というのは、本来、教員は、授業のプロフェッショナルであるべきであると考えから。子どもたちが学校で一番、時間をかけて過ごすのは授業である。授業で勝負すべきなのがあるべき姿。自分自身は部活動の指導をしてきて良かったと感じている。経験年数が浅かったとき(初任校で)に、(経験のない)球技の顧問で良い思いをできたことも大きかった。クラブが子どもの教育に凄く良い効果を与えたり、教員の仕事の中でもいい経験ができる場であると思う。ただし、これだけ仕事のスリム化や「働き方改革」と言われる時代であれば、クラブをより専門的に教えたいという人に子ども達が教わる方が良いと思う。もちろん、できるだけサポートはしたい。クラブと本来の学校の業務が本末転倒にならないようにあるべきではないかと思えます。クラブが居場所の子どもがいることも事実。そういう点ではクラブは必要だと思う。うちのクラブは生徒達自身が頑張っていて、なんとかなっている事実はあるが、クラブがあっても、教員が導けない現状も沢山あり、その中でクラブで起こった問題の対処に追わ本来すべき仕事できていないという現状は、日本中で多々見られるのではないかと思う。それは良くないと思う。クラブで輝ける先生は、(クラブを)外部委託するとしても、(クラブ指導の)軸になってほしいと思う。

④外部の指導者がトラブルなく行うためにはどのような工夫が必要だと思われますか。

学校のクラブである以上、責任の所在は顧問にある。今の(運動部活動改革)の流れの中で、数年後に、仮に(クラブが)外部団体として位置付けられるのであれば、その時には責任を委譲していくことにはなるだろう。ただ、今の現状では、学校のクラブであれば、責任は顧問教員にあるべきである。外部指導者に任せきりになるべきではない。顧問と外部指導者が、きちんと話ができおり、共通の理解ができた上でクラブ運営を進めていくべきである。そういう意味では、今回大体大から派遣してもらっている学生指導者は、凄く自身(顧問教諭)の意図した形で練習や指導をしてくれていると感じている。顧問の意向と合致することが大事であると思う。この制度は、部活動指導員でもないのに、試合などの引率は想定していないが、子ども達から要望が出たら、応援に来てもらうことなどについて考える段階になるのかもしれない。今回の外部指導員は、「勝たせる」とか「勝利至上主義」ではなくて、「子ども達をみてくれている」と感じている。他の方でも、外部から指導者としてクラブに来てくれるのであれば、学校教育で大事にしていることを、重視して来てもらいたい。

3) 派遣指導者(学生)のコメント

- 練習内で生徒自身の常に新しい吸収が出来るように、一般的な練習内容よりも指導内容や方法の工夫が必要と感じた。
- その日のテーマを伝えた上で、生徒自身がかっこよくなり、実際に「頑張れた」「良かった」という声が聞こえるような場にしていきたい。
- 一方的な指導にはならないこと。生徒自身の意志目標を尊重しながら、生徒の競技力を考慮して、競技力向上、目標に向けて指導内容や方法を工夫しなければならない。

(8) 展望や課題

- 大学としては、継続的な派遣を担保できるよう引き続き、熊取町教育委員会、派遣先の中学校、また大学の各運動クラブとの連絡・調整の体制をスポーツ局を中軸に取り組んでいきたい。
- さらに本事業の継続と発展のために、派遣指導者の教育や啓発に注力すると共に、そのための財源確保などに取り組んでいきたい。
- 今回の実施にあたって、中学校側のニーズのくみ取り、それを指導者に周知・徹底することが事業の要諦である。
- 各中学校運動部と、本学派遣学生の日常の運動クラブにおける競技活動もあり、両者のスケジュール調整が非常に時間や手間を要し、本件、実施上の課題である。

本事例も含めて、熊取町立中学への指導者派遣を2020年2月～3月に予定はしていたが、派遣者と対象校の運動部のスケジュールがあわず、また新型コロナウイルス感染症への対応による熊取町立中の3月2日～24日の休校措置につき、本事業期間内でのその他の派遣実施は実現できなかった。ただし、来年度以降も本事業は、熊取町と本学間で継続・発展的な実施を計画している。